

普及項目	増殖
漁業種類等	採貝業
対象魚類	アサリ
対象海域	八代海

## 八代市鏡町における豪雨被害からのアサリ資源回復に向けた取組み

県南広域本部水産課・川崎 信司

### 【背景・目的・目標（指標）】

八代海のアサリ資源は低水準で推移していたが、ここ数年、地元漁協が被覆網による資源管理を進め、アサリ資源再生の兆しが見え始めていた。しかし、令和2年7月豪雨によるアサリ生息海域の塩分低下の影響により、多くのアサリがへい死する被害が発生した。

ただ、特に被害が大きかった鏡町地先では、その後の調査で被覆網下にアサリ稚貝が発生していることが確認された。そこで、今年度は数年後に豪雨の前年の水準までアサリの漁獲量を回復させることを目指し、被覆網下のアサリ生息状況の把握とその結果を用いた現地指導を行うことを目標とした。

### 【普及の内容・特徴】

#### （1）被覆網下におけるアサリ生息状況調査

令和2年7月豪雨以降、鏡町地先の被覆網を張り込んだ漁場において、月2回の大潮毎に調査を実施した。なお、被覆網の下で10cm平方枠を用いて5回程度底泥を採取し1.0mmメッシュでふるい、アサリの殻長ヒストグラム及び生息密度(個数/m<sup>2</sup>)の推移を確認した。なお、調査は、令和2年(2020年)7月6日から令和3年(2021年)3月29日まで19回実施した。

#### （2）被覆網等の適正管理指導

令和2年7月豪雨後、1ヶ月程度続いた海域の塩分低下により、アサリ成貝やその他の二枚貝、巻貝等は、その姿を消していたものの、被覆網下には豪雨前後に着底したと推測される殻長10mm以下のアサリ稚貝が生残していた。そこで、漁場に設置した被覆網について、主にマガキなどの付着生物除去、季節風等が原因で起こる砂の移動による埋没した網の復旧、食害生物や浮遊物の絡みによる網の破損補修など、徹底した管理を継続して行うよう地元の鏡町漁協を指導し、生残していたアサリ稚貝の保護育成に努めた。

### 【成果・活用】

被覆網下のアサリ稚貝は、順調に生育し、令和3年(2021年)3月には、殻長30mm、殻幅12mmを超える漁獲サイズに成長した。このことから、被覆網下の春(6月頃)生まれのアサリを翌年春(4~5月)に漁獲するという、1年単位での生産方法を管内の漁協に提案し、次年度から実証的な取組みを行うことにつながった。なお、梅雨前に低塩分による被害を受けやすい成貝を漁獲することで、梅雨時期の塩分低下による被害の軽減も期待される。

### 【達成度・自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76~100%）

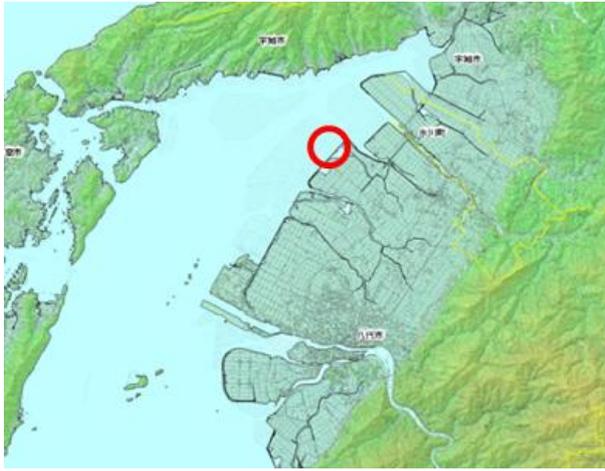


図1 八代海の八代市鏡町地先の位置図



図2 鏡町地先アサリ漁場状況(2020. 7. 6)



図3 被覆網下のアサリ(2020. 8. 4)



図4 被覆網下のアサリ(2021. 2月下旬)

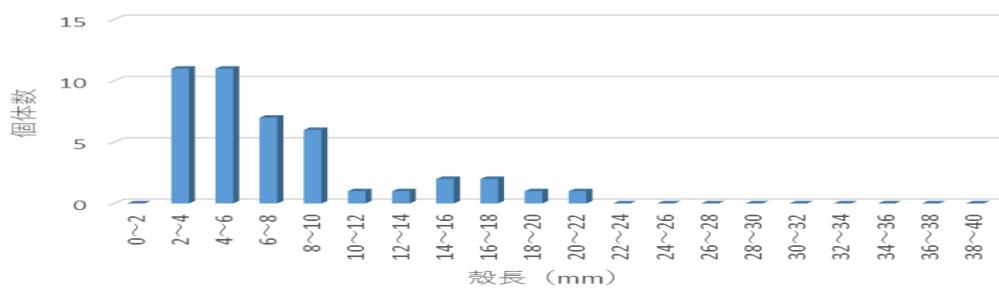


図5 被覆網下のアサリの殻長(2020. 8. 4 n=43 860個/m<sup>2</sup>)

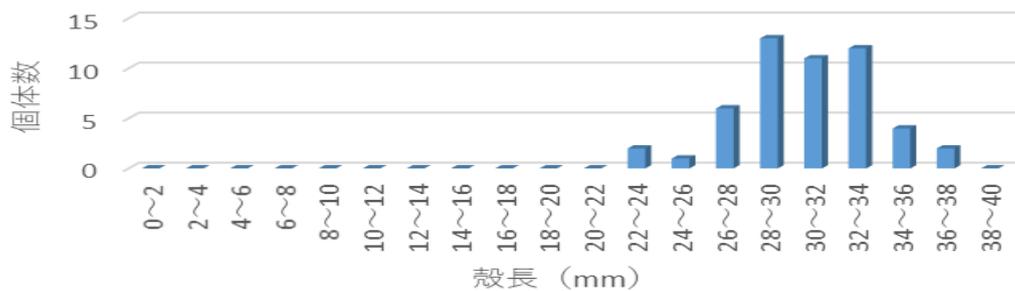


図6 被覆網下のアサリの殻長組成(2021. 3. 29 n=43 510個/m<sup>2</sup>)